

# 読賣新聞

2010年(平成22年)7月30日(金曜日)

総合

2



撮影・宇那木健一

子供の笑顔プリントした傘で平和を訴える

## 顔

みずたに  
水谷

こうじ  
孝次さん 59

「戦争・紛争の火種を和らげる希望の光を、被災地から発信していきたい」。今夏、被爆65年を迎えるヒロシマ、ナガサキ。世界中で撮影した子供たちの笑顔をプリントした傘100本を広げ、核廃絶への祈りを込める。

名古屋出身。数億円単位の広告を手がけるアートディレクターとして活躍していた40代半ば、米国旅行で屈託なく笑う少女たちに出会った。笑顔に「究極の幸せ」を見た気がした。「笑顔こそ最高のデザイン」と本業の数を減らし、カメラを手を26か国を回り、約4万人をファンダーに収

めた。同時テロ後のニューヨークや大地震に襲われた中国・四川省でも「復興」を願い、シャッターを切った。それをパネルや傘にして「笑顔と幸せ」の輪を広げてきた。

「ヒロシマでも笑顔の傘を」と誘われたのは約2か月前。改めて被害を学び、被爆者の声を聞いた。「絶望を経験した被災地だからこそ、笑顔があふれる街にしたい」。8月1日に広島・原爆ドーム前、7日に長崎・平和祈念像前で開くイベントでは、協力メンバーが市民らから集めた平和へのメッセージも披露する。(大阪社会部 梶多恵子)